

六郷特別出張所管内	
人口	男 33,358人
	女 31,659人
	計 65,017人
世帯数	31,883世帯
平成25年2月1日現在	


# 六郷わがまち


発行：地域力推進六郷地区委員会  
 編集：「六郷わがまち」編集委員会  
 事務局：大田区六郷特別出張所  
 〒144-0055 大田区仲六郷2-42-2  
 電話 03(3732)4885  
 FAX 03(3735)6249


六郷わがまち


この取材を通して、変わりゆく町の安全を確保し、子どもたちの健やかな成長を支える「子ども安全マップ」作成の必要性を強く感じました。行政が発行する防災地図ではなく、誰にもわかりやすく、しかも手元に置けるようなものがあればどれだけよいでしょう。

平成25年度からは、各小学校で「地域安全マップ」の作成に取り組むことが予定されています。地域住民や町会の人たちが学校に協力して、子どもた

 ニコちゃんマークやSOSマークがボロボロになっていて「無関心」危険


 この電灯は、人が通ると明かりがつくので、すぐに人が来たとわかるから安全


 落書きが放置されている「無関心」危険


 きれいな花が咲いているし、いつ人が来てもおかしくないから安全



## 子ども目線のコメント

 公園のトイレ、まわりが見えにくく、トイレの中で誰かが待っている可能性があり危険

 落書きを注意したり、消している人がいるので安全

 ゴミが放置されている。注意する人がいないということなので危険

※上記図①安全マップと子ども目線のコメントは、複数のグループが作成した中の一部を抜粋し、原文のまま載せています。

～作成した子どもたちの感想～  
 ● 町には、危険な所・安全な所があります。  
 ● 地域の人たちが見ていてくれるから安全です。  
 ● これからは危険な所へは行きません。

～調査に同行した地域の方の感想～  
 ● 子どもたちは、見えにくくて入りやすい所を「危険」、見やすく入りにくい所を「安全」と、判断していました。みんな真剣に取り組んでいました。



(左)「ニコちゃん」ステッカー  
 六郷地区の地域・家庭・学校が連携し、地域ぐるみで「子どもたちの見守り」を進めていくためのシンボルマークです。デザインは東京都立六郷工科高校の生徒によるもので、愛称は公募により平成20年9月に決まりました。



「こども SOS の家」ステッカー (右)  
 緊急の避難所を表示しています。子どもたちが、痴漢や付きまとい行為などの被害を受けそうになったり、身の危険を感じたりしたときに、助けを求めることができます。平成13年7月に、区が事業として始めました。

子どもたちを取り巻く環境の悪化を受け、地域や学校では、警備の強化やパトロールなど、様々な取り組みが行われています。その中からアンケートで興味深い回答のあった志茂田小学校を取材しました。同校は、毎年4年生が授業の中で『安全マップ』を作成しています。(図①) 昨年9月には、西六郷一丁目町会役員、特別出張所職員、学校の先生と子どもたちが実際に歩いて調査を行いました。

## 小学校では・・・(子ども目線の安全マップ)

**子どもたちを見守る取り組みを進めよう!**

近年、子どもたちが犯罪や事故に巻き込まれる報道は後を絶ちません。区内でも不審者情報が連日のように寄せられており、もはや自分たちの安全は自ら守らなければならない時代です。次代を担う子どもたちが健やかに成長できる安全な環境を整えるのは大人の責任です。今号では、地域の小学校・児童館・幼稚園・保育園、そして町会・自治会に、子どもの見守りに関するアンケートを実施しました。

新学期を前に、このテーマについてみなさんと一緒に考えていきたいと思えます。



# 子育て施設では

六郷地区の保育園・幼稚園・児童館では、区や警察署、消防署と連携し、預かっている子どもたちの安全確保に細心の注意を払い、避難訓練や子どもたちへの安全教育など、可能な限りの対策を講じています。

私たち大人が、未来を期待されている子どもたちのために、何ができるかを考え、見守り活動等を通して子どもや保護者が安心して住めるまちづくりを進めていくことが必要だと思えます。道路整備や

## <日頃の安全確保>

- ☆ 安全に関しては危機管理プロジェクトを作り、打ち合わせをしている。
- ☆ 自然災害に関する安全などについて話し合い、月1回避難訓練をしている。
- ☆ 防災訓練は地震・火災を想定し、防犯訓練は年1回実施している。
- ☆ 警察署や区役所による、「交通安全教室」・「防犯講話」等に参加している。
- ☆ 不審者対応訓練も行い、日頃から「知らない人にはついて行かない」等子どもたちにわかりやすく話している。
- ☆ 門の施錠管理の徹底や、散歩時にいつでも園に連絡が取れるように保育士が携帯電話を所持している。

## <抱えている問題>

- ▼ 周辺の道が狭く、避難の難しさを感じる。また、住宅が密集している所は、火災時の避難も困難であり、地域との連携を密にしていかなければならない。
- ▼ 災害時の安全マップ作りを今後取り組みたい。地域の防災訓練や防災についての話し合いに参加する。
- ▼ 園舎の周りの柵が低く、簡単に越えられてしまう。電灯が少なく、夕方以降園舎の周りが真っ暗になる等の施設の問題がある。
- ▼ 女性だけの職場であること。土手沿いに隣接しているため、不特定多数の人の往来や沿道からカメラを向けられること等の不安がある。



保育園の避難訓練で、消防署による「煙体験」を実施

木造住宅密集地の解消など、防災まちづくりの推進や、幼稚園・保育園・児童館が地域と協力する体制を整え、ともに子育てをしていくことが求められています。

# 町会・自治会では

地域では、住民同士が色々な取り組みを行っています。中でも子どもの見守り活動は重要な活動のひとつです。

平成18年に発足した「子ども見守り協議会」の活動は六郷地区の絆を象徴するもので、これまでニコちゃんマークの制作や学校横断幕の掲示、地域住民を対象とした勉強会など、子どもの事故防止の啓発を積極的に行ってきました。

また、各町会・自治会では、町内パトロールやあいさつ運動、子どもたちへの声かけ運動や民生委員との協力による虐待通報の促進等、それぞれが工夫しながら取り組みを行っています。



帰宅する園児に声をかける町内パトロール隊

さらに、今後の活動予定として、京急高架化による東西通学路の安全確保や、各家庭の玄関先の掃除を登下校時間に合わせながら子どもたちを見守る活動、犬の散歩をしている人にも子ども見守りを依頼する「わんわんパトロール」、昼夜を問わない買い物客の賑わいを利用した『商店街通りの見守る目』などを挙げている地域もありました。

また、東日本大震災以降、地震による津波対策にも関心が高まっています。川沿いの一部の町会では、災害時に地域内の高層住宅へ避難できるように「避難ビル協定」を結んでいるほか、大田区役所でも3階建て以上の建物を対象に調査を実施し、区内の企業やマンション管理組合に対し協定の締結に向けての準備を進めています。

これらの避難場所の確保と同じく大切なことは、普段の生活の中から「どこに？どのようにして？」避難していけばよいのかを子どもたちに教えたいという、子どもたち自身もきちんと理解していくことです。

## 安全な避難所のために

今後も各町会・自治会は、関係機関・団体と連携し協議をしていくなから防災教育を進め、地域での子ども見守り活動を継続していきます。

六郷地区では、いくつかの小・中学校で、改築のための基本構想や基本計画が作られています。現在設計が進んでいる東六郷小学校では、多摩川の氾濫や津波による浸水対策として、

- 避難所となる体育館を2階にする。
- 防災倉庫を1階と2階に分散する。
- 電気室を3階に設置する。
- 防災水槽を兼ねプールを屋上に設置し、消火やトイレの洗浄に使用する等の工夫がされています。

また、区では、学校を「逃げ込む場所」から「災害に立ち向かう場所」へと機能拡充し、地域防災力の向上を図る取組を進めています。

# トピックス

## 祝 安部龍太郎氏 直木賞を受賞！

六郷に縁のある作家 安部龍太郎氏(57)が、桃山時代を描いた小説『等伯』で、第148回直木賞を受賞されました。おめでとうございます。

安部氏には、3年前に青少年の健全育成について六郷地区で講演をしていただきました。

氏の今後ますますの活躍が期待されます。

## <<地域のイベント>>

### ◆大田区子どもガーデンパーティ

日時：4月21日(日) 10時～  
会場：多摩川緑地区民広場

### ◆長崎ハタ揚げ in 東京

日時：4月29日(月・祝) 9時～  
会場：多摩川緑地区民広場

## <<工事なう>>

◆六郷特別出張所新庁舎の建設は順調に進んでいます。工事の様子は、大田区ホームページでご覧いただけます。



↑平成25年2月  
地下1階の骨組みとなる部分の工事  
第一京浜国道側から撮影



平成24年6月 →  
既存杭撤去工事